

令和7年度 第3回裾野市総合計画審議会

1 日時 令和7年10月28日(火) 14時25分～16時30分

2 会場 裾野市役所4階401会議室

3 出席委員(敬称略)

藤井 敬宏(日本大学理工学部 特任教授)

山本 睦(常葉大学保育学部 教授)

橋本 勝彦(裾野市区長連合会 連合会長)

渡邊 昌志(裾野市商工会 副会長)

杉山 千恵(裾野市社会福祉協議会 会長)

市川 加代子(裾野市環境審議会 委員)

吉田 俊朗(総務部人事室総務部総務業務チーム)

久保田 良一(裾野金融同盟 静岡銀行裾野支店 支店長)

市川 顯(静岡県東部地域局 局長)

※土屋委員、飯塚委員欠席

4 次第

(1) 開会

(2) 会長挨拶

(3) 議事

①第5次総合計画後期基本計画改定案について

・第5次裾野市総合計画後期基本計画策定方針	資料1
・第5次裾野市総合計画後期基本計画骨子(案)	資料2
・施策の柱変更対照表	資料3
・第5次裾野市総合計画後期基本計画改定案部別変更ポイント	資料4
・第5次裾野市総合計画後期基本計画改定案	資料5
・第5次裾野市総合計画後期基本計画参考資料	資料6
・第5次裾野市総合計画後期基本計画指標(KGI)一覧(案)	資料7
・第5次裾野市総合計画後期基本計画指標(KPI)一覧(案)	資料8
・パブリックコメント対応一覧(未定稿)	資料9
・スケジュール	資料10

②答申について

(4) その他

5 会議記録（要旨）

（3）議事 ※司会：橋本会長

- ①第5次総合計画後期基本計画改定案について
- ②答申について

● 事務局説明

○会長

- 議事についての説明が終了したため、委員の皆様からのご意見、質問等を求める。

○藤井委員

- 後期基本計画における KPI を含む具体的な数値目標の設定と、目標達成状況を把握しようとする事務局の姿勢を評価する。
- SDGs のマークが付いた施策（3-3、3-4 など）について、個別の KPI 達成状況だけでなく、SDGs の目標設定値から見て暮らし全体が向上しているかどうかを常に確認し、達成されない課題は次の第6次計画にどう位置付けるかの方針が必要となる。
- カーボンニュートラル（2050年目標）に関して、長期計画の観点からバックキャスト型で2040年、2030年の目標を設定し、現状の「市民意識の向上」だけでなく、具体的な施策（EV や水素といった交通部門との連携など）を次なる計画に結びつける迫力ある計画論を持った方がいい。
- 裾野市は将来の人口動態から若年女性人口が減少し、「消滅都市」のアラートが出ているため、移住者誘致だけでなく、市民に定住してもらうための「逃げない政策」として、安心して暮らせる・学べる環境作りが必要となる。
- 2032年に高校再編が予定されている状況を踏まえ、高校生が安心して地域で暮らし、移動できる仕組み、すなわち交通支援型のプログラムを次なる総合計画の柱に盛り込み、部署間の連携を取り早期に施策を構築してほしい。
- 答申に向けて、後期基本計画の全体の評価を SDGs ベースでどうするか、2050年の環境問題にどう繋ぐか、定住施策を子どもたちの政策にどう組み込むか、といった視点を追記してほしい。

○山本委員

- 裾野高校の再編は県のレベルの話であり、市だけでどうにかすることは困難。定員充足率から見て存続が厳しくなる可能性があり、生徒の多くが市外在住であるため、地元（裾野市）に役立つ人材育成という目標と合致しないのか。
- 一般的に、高校卒業後の就職率が高い一方で、離職率も高いという統計的事実について、市民レベルで共通の合意を得たい。
- 幼保再編（こども園化）は異なる職業を一つにするようなものであり、非常に大変

なこと。市役所が積極的に関わって整理しないと、人材流出につながる可能性がある。

- 施策 123（一人ひとりを大切にす教育）は個別最適化の議論だが、発達に特段の支援を要しない子どもたちに対する学力の向上や保証をどのように図るのかという視点も必要となる。
- 部活動の外部委託は良い方向だが、専門家の人材確保が問題となる。
- スポーツツーリズムについて、総合公園型の施設でも人が入らない事例もあり、裾野市の点在する施設でこれを目指す必要があるのか考えたい。
- 近隣の事例（三島市の教育分野での ICT 化など）を参照し、移住の話も含めて、裾野市の魅力を出すためのデータをもう少し提供してほしい。

○渡邊委員

- 総合計画の資料は素晴らしいが、駅前の問題を含め、全体としてぼんやりとしていると感じる。この部分は、今後の実施計画に期待する。
- パブリックコメントの数が少なかったことが気になる。市民の関心の低さと、コメントしにくい側面があると感じる。

○杉山委員

- 高齢化は仕方ない。
- 地方でも、立派な病院や図書館がある街並みを見かける。裾野市もできるのではないかと感じている。
- 裾野高校に関しては、福祉や保育に特化して改革し、そこを育てていくことで生き残る道があるのではないかと提案する。
- 近隣市町の成功例を参考にするのは良いが、裾野市は、どこかがやっているからうちもという姿勢ではなく、裾野市が提案してうまくいったというオリジナルのものを見つけてほしい。そうした挑戦的な姿勢は職員のやる気やアイデアにつながる。
- 認知症予防などに積極的に取り組む高齢者をサポートしてほしい。

○市川（加）委員

- 小山町では、小山高校1年生全員が町役場でインターンシップを行う。毎年1~2名のトップクラスの生徒が就職しているという成功事例がある。
- 裾野高校を残したいという思いが強い。

○久保田委員

- 計画は毎回出席の度に改善されており、良いものに仕上がってきた。
- 銀行としてこの計画に貢献できるのは、施策2-1の企業誘致だと考える。従業員が増えることで税収が増加した成功事例を見てきた。誘致情報提供などで協力したい。
- 先週開催された地域イノベーションキックオフイベントで市長の意気込みを感じ、金融機関一体となって、ワンストップサービスでの創業支援に協力したい。

○吉田委員

- KGIとKPIの点について、目標達成への思いが伝わってきて良かった。
- 「増加」といった言葉を使う評価について、年間の増減差分だけで効果があったかを評価するのは難しいため、どういうことをもって見直すのかをあらかじめ準備した方が良いと感じた。
- 岩波駅周辺のウーブン・シティまでの遊歩道について、通勤者が次世代モビリティなどを利用する可能性もあるとすると、活性化に向けて知恵を絞ってほしい。

○市川（顯）委員

- 先日の地域イノベーションキックオフイベントに触れ、外部から来た若い人たちの提案と元々良い産業との融合（地域産業のイノベーション）は大変面白く、裾野市は地の利や景観、水などから可能性のあるところだと再認識した。
- 重点戦略を施策体系の中に「重点施策」として落とし込み、新しく第4部に「計画の推進」を立てて市政運営の基本理念を特出ししたことで見やすくなった。
- 職員の人材確保が重要である中、「効率的・効果的な組織体制」に関し、公務員の時間外勤務上限規制を踏まえ、効率化の視点で、記載があっても良いと考える。

○山本委員

- 市の施策の最終的な方向性として、移住者を含めて人口を増やすこと（量）を目指しているのか、それとも一人ひとりが豊かな暮らしができるように支援していくこと（質）を目指しているのか、どちらなのか知りたい。

○事務局

- 今回の人口ビジョンは社人研の推計値を示すに留めており、人口減は起こるというビジョンであり、人口をどう増やすかという設定はしていない。
- 質を追求することによって「人と企業に選ばれるまち」を目指すという考えのもとに、現在の市政運営を行っており、当計画も同様のスタンス。

○藤井委員

- 岩波駅周辺の整備に関して、ウーブン・シティの拠点としての位置付け等がこれからであるため、産業誘致や企業立地施策への展開もこれから。
- 後期基本計画の中で、拠点の位置付けや産業面について「動き出す」ことに関するKPIを考え、期待値を込めた思いを書き加えてみてほしい。
- 他市の総合計画で議論が出ている消防職員数が足りているのか、災害発生時に都市全体を守れるのかという防災機能の脆弱性について、別の機会でもフォローアップしてほしい。

○事務局

- ウーブン・シティは9月25日にオフィシャルローンチし、実証が始まったが、地域に開かれるという考えは変わらないと認識している。徐々に地域に開かれることを期待。
- 市としても、ウーブン・シティから出る情報を待つだけでなく、連携しながら、どうまちづくりに繋げられるかを積極的に進めたいと考えている。
- 藤井委員からの防災に関するご指摘は重要であると感じ、第4回の中で回答できるよう準備したい。